

私の好きな春

3年生 朝倉源希

4月になって気温も徐々に上がり、春の香りが漂う季節になった。私は冬には感じなかったいろんな香りが混ざっているこの香りが大好きだ。なぜか気持ちが 高鳴り、新しいことを始めてみようとする意欲が湧いてくるのである。

この季節に絶対的な存在感を示すものといえばやはり「桜」である。今やほとんどの桜はソメイヨシノという人為的に作られた品種のものばかりであるため野生の桜は見る機会があまりないのだが、毎年あの美しさには感銘を受ける。最近、なぜ自分はこんなに桜に魅力を感じるのだろうか。と花見をしながら考えてみたのだが、二つの理由があるように思える。

一つ目は幹と花のコントラストのギャップである。あのように黒くてゴツゴツした幹をもつ木は日常的に 桜以外に見かけることはなく、枝も地面に覆い被さるように伸びていてどっしりとした印象を受ける。だが、そこから咲く花は薄いピンク色で、とても小さく可愛い。それらを離れて見ると、幹の黒さと強さの中にコ

トラストが高く可愛い花がよく映えていてそのギャップがお互いを引き立たせている。

二つ目はすぐに散るという点である。桜は一年に一度しか咲くことがないのに咲いてから散るまでがとても早い。だが、その儚さが満開時の喜びを一層大きくする要因だと考えられる。また、散る花びらの量も相当なもので、多くの桜が植わっているところではまるで大粒の雪が降っているかのような感覚にさえ陥るほどだ。辺りの地面は花びらで覆われ、景色は桜で満たされて言葉では表すことができないほどの気持ちになる。これぞ春の醍醐味といった具合である。

このように桜には他の木にはない魅力があり、それは誰が見ても分かるということ、また春という心地よい季節に花を咲かせるということがこんなにも多くの人に親しまれている理由であると考えられる。これから先でも桜は日本の春を代表する花として人々に親しまれてゆくことだろう。